

美しい森林づくり全国推進会議 全国漁業協同組合連合会が担う 美しい森林づくりへの活動

「美しい森林づくり全国推進会議」の構成団体で、全国の JF（漁協）や連合会とともに、協同して組合員の漁業経営と生活を守り、そして青く美しい海と豊かな海の幸を次の世代まで受け継ぐためさまざまな活動を展開している全国漁業協同組合連合会。

今回、漁政・国際部 次長の道下善明氏におもな活動や「美しい森林づくり全国推進会議」での役割などを伺いました。



漁政・国際部 次長の道下善明氏

**海の環境保全のためには
森が重要であることを認識**

「江戸時代から続いてきた『魚つき林』（※魚介類の生息、育成に影響をもたらす森林のこと）に加えて、近年では森、川、海のつながりの重要性が認識され、漁業者による『漁民の森づくり』が盛んになっています」と語る全国漁業協同組合連合会 漁政・国際部次長の道下善明氏。

中でも宮城県の団体「牡蠣の森を慕う会」の活動が全国的に有名となりました。

「気仙沼湾は三陸リアス式海岸の中央に位置する波の静かな天恵の良湾です。波静かな入り江は養殖漁場として優れていて、大正時代

からはカキ、近頃はワカメやホタテなどの養殖も盛んです。しかし、昭和四〇年代から五〇年代にかけては気仙沼湾の環境が悪化し、赤潮の発生により茶色の海となりました。一個のカキは一日二〇〇リットルもの海水を吸っています。赤潮プランクトンを吸ったカキは全く売り物にならず廃棄処分されました。赤潮の原因は水産加工場から垂れ流される汚水、一般家庭からの雑排水、農業現場における農薬、除草剤の使用など、多岐に渡っていました。川が運ぶ森の養分がカキの餌となる植物プランクトンを育てています。川の流



「牡蠣の森を慕う会」の植樹祭の様子



「北海道漁協女性部連絡協議会」のメンバー



植樹の様子（北海道漁協女性部連絡協議会）

全国漁業協同組合連合会

全国漁業協同組合連合会（JF全漁連）は、全国のJF（漁協）や連合会とともに、協同して組合員の漁業経営と生活を守り、そして青く美しい海と豊かな海の幸を次の世代まで受け継ぐためさまざまな活動を展開。よりよい地域社会を築くこと、そして組合員の経済的、社会的地位を高めることを目的としています。JF全漁連は、各都道府県にあるJF連合会や浜に密着した活動をしている全国の約1100あるJF（漁協）を中心に組織しています。



「牡蠣の森を慕う会」の植樹祭の様子

域に暮らす人々と、価値観を共有しなければ、きれいな海は帰ってこないことを悟り、大川上流の室根山に自然界の母である落葉広葉樹の森をつくらうと思いました」（「牡蠣の森を慕う会」代表・畠山重篤氏）

こういった経緯から「牡蠣の森を慕う会」が設立され、平成元年から植樹祭が行なわれています。この植樹祭ではこれまでに約三万本の落葉広葉樹が植えられました。

「牡蠣の森を慕う会」のような考え方や運動はわが国の漁業者に浸透し、一九九八年二月に「全国漁民の森サミット」を開催しました。その結果、全国各地で漁業者による植樹

活動が広がっていき、全国二八道県で漁業者による植樹活動が展開されています。北海道では女性たちによる「森づくりの活動」が活発ですね」（道下善明氏）

北海道には一〇〇近くの漁協女性部があり、最初、何箇所かの漁協女性部で「海の水をきれいにするために山をきれいにしよう」という取組が始まり、その活動が各地にどんどんと広がっていきました。そんな中、「北海道漁協女性部連絡協議会」では一一年前から北海道と協力をして森づくりの活動をしています。その一環として「道民の森」（※北海道所有の森林総合利用施設）の中に「漁民の森」を作り、毎年、漁師の奥さんが中心となって、ミズナラ等の苗木を植えています。現在では北海道以外の漁協女性部でも森づくりが盛んになり、全国で約一万人が植樹活動に参加しています。

「漁業者による植樹活動は漁業者自身の漁場を守る運動ではありませんが、同時にこの活動は河川の流域や沿岸域の侵食防止や土砂崩壊防止、河川環境や海域環境の改善を通じたアメニティの向上、生物多様性の確保など、直接国民に対するメリットをもたらしています。また、漁業者の植樹活動は地域の人々を啓発し、海の環境保全のためには森が重要であることを認識させ、地域ぐるみの植樹活動へと発展するきっかけになっていると思います」（道下善明氏）